

飲み、いったいこの子供達は、大人になつた時どんな体になつていくのでしよう。そしてその子供は？、野生の動植物の中には絶滅に瀕しているものが多数あります。水俣病や四日市ゼンソクを対岸の火事のような気持で見ている人が多いと思いますが、いつそれが私たち自身の姿になるかわからないのです。今まで公害病にしても薬害にしても、すべてそうしたものが入間の体に何らかの影響をおよぼしてからでない対策を立てなかつたのを見てわかるように、つねに私達の体が人体実験に使われているのだという感じさえいたします。

毎朝水道の栓をひねるたびに考えることは、そのことです。朝最初に出る水はまるでオレンヂジュースのような赤茶色で鉄くさくて、少し捨てなくてはとても使えたものではありません。その水を見るたびに私はいつもこう考えます。この土浦の水道を使っている人達の中である日突然、だれかが体の異状を訴えたとします。それは次から次へとひろがり、土浦病などと名をつけられ、調査班が結成され、その調査の結果、塩素の多量に入つた水を長年飲んでいたことに原因があることがわかつたなどというような事態が起つたら、もうその時はすでに遅いのです。長年安全だといわれつづけてきたものが、いつ何時、安全でなくなるか、わかつたものではありませ

ん。キノホルムがよい例ではありませんか。

私たち母親は子供がちょっと風邪を引いた位でも医者だ薬だと大騒ぎをします。私もその一人です。子供が病気になるつた時のうろたえようはありません。その気持をもっと広げてその子供、またその子供にまで及ぼして行くことではありませんか。こんなに地球が汚れてきたのは長い間のことではありません。ここ十年か十五年の間のことです。このままでいいたら私達の孫の頃は食べるものもなく、空気は汚れ、天然資源も使い果し、地球は人類の住める所ではなくなり、そのありさまを想像する時もう一日として安閑としていられなくなるのです。

私達主婦は毎日忙しい日を送っています。現に私も三人の子供を抱え悪戦苦斗の毎日を送っています。しかしその中にもある程度自由な時間があるものです。その主婦の特権ともいえる自由さを活用して近所で運動することも、書くことも、子供を連れてデモにだつて出ることも出来ます。公害の住民運動の先頭に立つのは私達主婦の役目です。もしこれを読んで下さつた方はこの運動に参加して、せめて水だけでも安心して飲めるように霞ヶ浦を守らうではありませんか。これは、こんなに汚くしてしまつた私たちの責任でもあると思います。